

HO!! 澤村大地×香原孝文 / 亦鹿光太郎×赤塚京治 / 黒尾隼明×夜久衛輔



H A P P Y
S U M M E R
V A C A T I O N

受け同士が日焼け止めを塗りあうだけのお話

うわっ

やつくんも赤くなっちゃう体質？
俺も同じでさ〜
これ使う？

この日焼け止め
すげー効くの！
大地が見つけた
きてくれたんだ〜

菅くん
サ
ン
キ
ユ
〜



ヒィヒィ
あまな〜

もうこんな
に
焼
け
て
ん
の
か
よ

？

ん？

ニョ
ココ

かわいいやつくんに
特別サーブス!
日焼け止め
塗ってあげる

カリッ
ピクッ

ひやつ

菅くん
そんな…所
まで塗らなく
ても…っ

う…っ

ピクッ

ちゅ

ちよっ!

ちよつと待って!
貸してもらえば
自分で塗れるから
…菅くん!

おっ

やつくん
かわいい…

ちゅ

あれは彼氏的に
サーブですかね
澤村くん?

ギリギリ
アウト…だな

カシヤ

カシヤ

カシヤ

カシヤ

カシヤ

カシヤ

カシヤ



う……んっ

そこはエプロンで
隠れるから
塗らなくても
平気……だべ？

や、やっくん
何して!?

菅くんも
肌赤くなってるから
俺が塗ってあげる

だるめ!
紫外線って布も
通っちゃうんだから
塗つとした方がいいよ

……データ交換
しような
澤村くん

……了解だ!
黒尾くん

※ 2人とも写真からムービーに切り替えました ※



赤葦くっん
肌赤くなってるから
俺達が日焼け止め
塗ってあげる

ちよっん

アル
びん...

?

?

あっ

いえ：今は
仕事なので
結構です

遠慮するなって！
パパッと塗って
戻れば平気だって

あもしかして
赤葦も赤くなっても
あんま日に焼けない
体質だろ？

変な所
触らないで
もらえますか？

先輩：
がた

アル
びん...

アル
びん...

アル
びん...



夜久が可愛すぎて
俺の息子：爆発
しそうなんだけど

勝手に爆発
させてろ！

俺の息子も
本気だしそう
なんだけど
どうしよ澤村

いいな、筋肉

やつくんと赤葎って
筋肉ついてるのに
ゴツク見えないし
肌白くてモチモチで
羨ましい

白いのなんて自慢に
ならないですよ
…って菅原さんの方が
真っ白つやつやじゃ
ないですか

…たしかに
菅原さんは筋肉付き
にくそうな感じですが…
そのままでも
素敵だと思いますよ

そうだよ菅くん！
筋肉ムキムキの
菅くんなんて
俺の菅くんじゃない！

なんか
褒められてるのか
なんなのか
複雑な気分だべ



これだから俺ら
休憩だから
…じゃーな



こーら！
そのくらいに
しときなさいよ
スガ

また
お前は…

止めんなよ
大地

あ…
旦那来ちゃった…



お前だけ
ズリーぞ
澤村!!!

俺も！
あかーしと
今すぐ休憩
したいー!!!

お前らさっき
休憩終わった
ばかりだろ



また大地さん
ナンパされてるじゃ
ねーか!!!
何で俺はされねーんだカ

ニヤニヤしてるぞ!!!

なに大地さんと
比べてるんだよ
:大地さんに
失礼だろ

ギョ
ぬぬっ!!!

ほあ
そんな暇なら
これこれ
3番テーブルに
持って行きなよ

またか...

ほい
はい
出ました



かき氷 ¥450

炙子 ¥600

俺の彼氏
澤村大地は
とてもモテる

え、嘘、
君まだ高校生なの?
落ち着いてるから
同い年くらいかと
思っちゃった

ねえ、休憩とか
あるよね?
私たち女子4人で
来てるんだけど
一緒に遊ばない?

さつき居た大きい
黒髪ツンツンの子と
銀髪ツンツンの子と
え、と
ハーフの大きい子も
誘って欲しいな

オーダー!
カキ氷イチゴ
メロンと
焼きそば、ラーメン

カリカリカリ
カリ

ほい
イチゴとメロンね

了解ッス!

スーガ

ん?

モテる大地を
見ると焦る
気持ちもあるけど

俺しか知らない
澤村大地が
居る事への
優越感の方が勝る

休憩一緒だろ？
部屋に戻って
少し休むか？

…ん、そうする

はい、と
イェーローニニ





ん？
…あんな事？

やっぱり
無自覚か…



もう…あんな事
ふざけてでも
するなよ



えっ!?

なんで!
二人とも
可愛いのに

ほら
さっきの
日焼け止めの…

…

「そなたから
スネは…」



それって
…嫉妬…とか？

…悪いか？



嫌なんだよ
…俺が



ん…

ふ…う

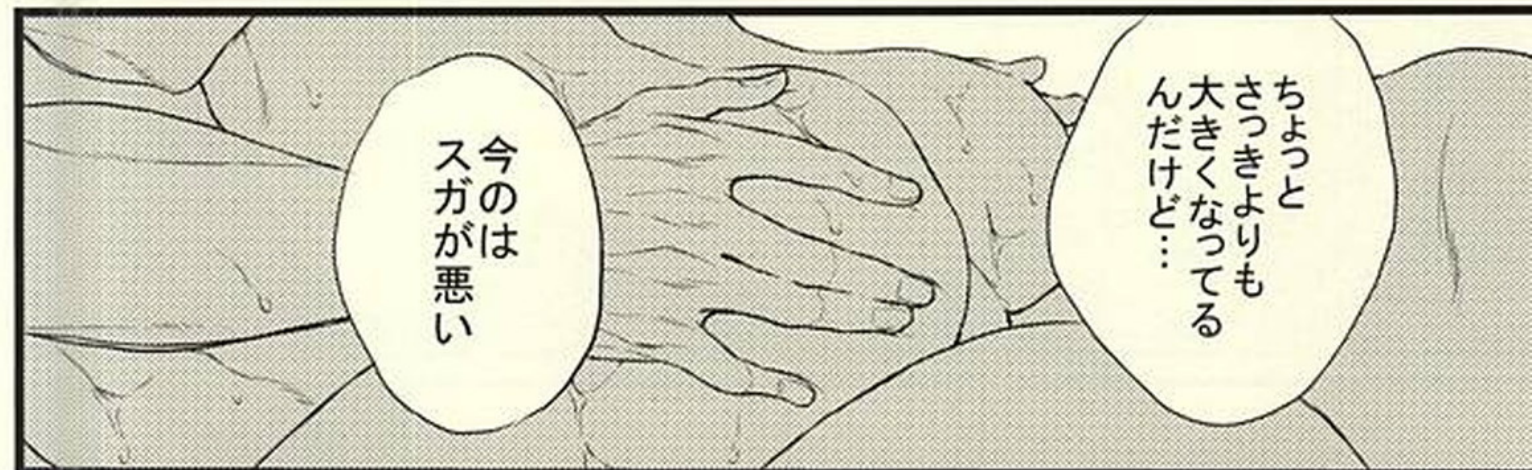
…んん

だい…ち

っ…あ



大地
かわいいいゝ



今のは
スガが悪い

ちよつと
さつきよりも
大きくなってる
んだけど…



：こんな甘えたな
大地知ってるの
俺だけだと思おうと
超優越感だべゝ

お前さ…
本当俺煽るの
上手いよな



HAPPY
SUMMER
VACATION

【イカした奴らと夏の海】

by 神永さえる

青い海、白い砂浜、照りつける太陽の日差しの下、健全な男子高校生たちは海に飛び込み泳いだり、スイカ割りをする……のが理想の夏……
だけども。

「現実甘くないってか」

「なんかごめんなく。バイト代上乗せしてもらえよう頼んどくから」

鳥養監督から頼まれ、海の家でバイトをする事になったのはいいのだけれど何故か鳥野以外のメンバーも巻き込んでしまったのはいいのだけれど今日は天気も良くおかげさまで海の家は大繁盛。早々に食材が無くなりそうで大変！ということと菅原、夜久、赤葦の三人は、『浅瀬でなんか海の幸探つてこい！』とざっくりとした指令を受けたのだった。

「こんな体験もそうそうできないし、ねえ赤葦くん」

「まあそうですが……食材をとってこいって、なにがいいんでしょね……海藻ならたくさんあるんですけど」

「あれ、スガくんこれ、ウニ？」

「おーそうそう！これは持ってって俺たちであとで食べよう。新鮮なウニは甘味があつて旨いんだべ」

「じゃあ、ウニを味わうためにも仕事仕事つと」

いくつかあつたウニをバケツに入れ、他の海の幸を探そうとシュノーケルを付けて潜ろうとしたその時。

にゆるり

「！」

「赤葦くん？どうした？」

「……いえ。何でもありません。すみません、早くすませましょ……っ！」

にゆる、にゆるり

「ふあっ!?」

「夜久くん!?」

赤葦の反対側にいた夜久からも叫び声上がる。

「なんか、足に……」

「落ちていて、海藻が絡んだだけだべ。足つったりしないようにして……」

「ちが、なんか、まきついて、きて……っ！」

「えっ……う、あつ……!?」

ところ変わって海の家。

かき氷器に氷を入れレバーをぐるぐると回すと、細かくなった氷をがキラキラと器の上に降り積もり美しい山をつくる。そこにとろーりと赤いシロップをかけると、尖った山が少し崩れ、緩やかなカーブを描く氷の山に変化して。赤色が目にも鮮やかで透き通る氷とのコントラストが芸術的。よし、上手くできた。と心の中で自画自賛しながら手伝いをしていた黒尾がお客様に渡そうとした、その時。

「たたたたーいへんです!!!」

「……っ！リエーフうっせー！ お前さっさと仕事しろ！」

お客様には笑顔を向けながら、驚いた拍子に少し山が崩れてしまったイチ

ゴのかき氷を手渡した後、リエーフに向き直る。

「すみません!!! いや、それどころじゃないんです! あれを、見てください!」

彼が指差した方向に視線を向けると……

青く広がる静かな水面に浮かぶ巨大な白い生物。先ほど作ったかき氷の様に三角に尖った頭に何本かの細く縦横無尽に動く足。見た目はイカの様だが、どう考えても大きすぎる。

「なあ、あれなんだ?」

同じく手伝いに駆り出され、接客中だった澤村と木兎に声をかける。

「ん? 映画の撮影とか?」

「じゃあ作り物か? その割に滑らかに動いてねえか?」

「最近の技術はすごいなあ……」

「いやいや先輩たち! どう考えてもあれ生きてるヤツでしょ! あいつの足みてくださいよ!」

そう、現実にはあり得ない様な光景。だが、その巨大イカの細い足で抱えているものは……

「スガ!」

「あかーし!」

「夜久!」

巨大イカに捕えられているのは全員知った顔だ。海の幸を採りに行くといっていた三人に間違いない。にわかには信じがたいが、こうなるとは、現実には起こることと認めるしかなかった。

「ん……あのイカ……どっかで見た事が……」

「呑気にしてる場合か澤村! あかーし! 今たすけるから!!」

「……いや、まて。落ち着け木兎、澤村!」

「(9)」

「よく見てみる」

早く助けないと、そう焦る二人に声をかけてきた黒尾の言う通り、もう一度巨大イカの様子をしてみる。大きな体から伸びる長い足で、三人の手は拘束され、空中に持ち上げられた身体が抵抗の手段を奪い、なすがままになっている。

「だっ……めっ……だっ……」

菅原の腰にぬるぬると滑る足が巻きつき、体を持ち上げ、不安定な状態にさせられる。

「うわっ! なんだこいつ! こらあッ……!」

夜久の両足首にそれぞれイカの足が巻きつき、左右に大きく開いたまま固定され。

「……………つうん」

巻き付いた細い足は赤葦の胸の飾りを器用になぞりながら両腋の下に巻きつく。

「……絶景だな」

「リエーフ、カメラ」

「はい! ばっちり撮ってます!」

「あ、黒尾! それあとで俺にもちよーだい」

三校の主将十次期エース達は目の前に広がる光景に一瞬自分たちがやるべきことを忘れてしまう。こんな、素晴らしい光景を止めなくてもいいんじゃないか、と全員が思いつけていたが、

「何やってるんですか……そんな事してる場合じゃないでシヨ。助けに行かないと」

日焼けが嫌だ、人と接したくないと、裏方に徹していたはずの月島が騒ぎを聞きつけたのかいつのまにやらシヤベルを片手に、彼らの横に立っていた。さっさと仕事終わらせて、今夜放送される恐竜映画を見たいと言っていたからだろう。(※山口情報) 珍しく積極的だ。けれど、

「あ、ダメ！ ツツキー！」

「え……うわっ……!!!」

だが、凄まじいスピードで目の前まで伸びてきた伸縮自在の長い足に手にしていた武器のシヤベルは簡単にはたき落とされてしまう。

「やつ、ああ……！ なに！ なんでこんなに……！」

その隙に細い足が水着のゴムを押し上げ、簡単に中に入る。

「や、だめ、水着のナカ、だ、めえ……んぐツ！」

肌と水着の間に少し隙間ができたことにより太めの足もすりと入り、もそもそと動き、月島の敏感な部分を刺激していく。

「月島！ 大丈夫か!!??」

「ツツキーも赤葦に負けずえろい」

「アイツ触手が似合いそうな顔してるからな……」

月島が捕らえられたことで四人は我に返る。確かに止めるには惜しいような気もするが彼らのあられもない姿を衆目に晒すのは止めなければいけない。

「黒尾さん、今なら全部の足が誰かに絡みついてるのでチャンスですよ！」

「油断はできないけどな」

「ダイオウイカってうまいかな？」

「食う気かよ木兎……大味でマズいって聞いた事あるけど……まあ珍しいから客寄せになるだろうし、捕まえる価値はある」

「じゃ、捕らわれの姫救出のため、イカ漁に行くとしたら」

澤村の声を合図に、エプロンを脱ぎ捨て海に向かう彼らの背中中は試合前のような緊張感と頼もしさで溢れていた。

「ねえ岩ちゃん！ 水浴びさせてたトオルクラークンいないんだけど！ 知らない？」

先ほどまで女の子に囲まれて、ご丁寧に一人ずつ対応していたがやっと解放され岩泉のもとまで戻ってきた及川が、きよろきよろと辺りを見回している。

「ん？ いつもどっかから出してくるあのでかいイカのことか」

「イカじゃなくてトオルクラークン！ あの子臆病だからどこかで震えてるんじゃないかって心配で……」

「そんなに大事なら見るとここに置いとけよ……あ、そういや、さつき向こうで鳥野の奴らが『イカ漁だー!!』って叫んでたよう……」

「ええっ!? そんなあ!! トオルクラークン——!! 今助けに行くよ——!!」

END

おっかれさま!!



大士せんと
コキ使えろの
女の人は「おれ」...



スケー!



えんのしたろ

うし、アイス賭けるか?

のった!

はい?

アロウ



前回までの
あらすじ

烏養監督の
親戚が営む
海の家のレストランに
駆り出された
烏野高校排球部

そこへ音駒や
梟谷の連中も
押し掛けてきて
さあ大変!

そんなワケで
いろいろあって

竜宮城です

大事な
（股間の）亀を
助けて
いただき、
ありがとう
ございました

そこの
亀かよ!!

おもてなしさせて
くださいな

まあ
そう言わず

帰ります

チェンジ







これでなんか
美味しいもんか
食べてって!

今日は
ほんとお疲れ様!

海の家
おんね
ばいばい(๑)



えっでも
菅くん?
いいの?

いいよー
結局こんな
遅くまで
付き合っても
良かったし!

大地お前
何考
ッてんた

それに
そろそろ
二人きりに
させて
欲しいし?

ゴッ

お前夏バテ
大丈夫
か?
Xミ↑↑↑

はいい...

……って







SPICA / 2015.08.15

HAPPY
SUMMER
VACATION

